

**R18b**                    **SN1995D の母銀河 NGC2962 の表面測光**

田鍋和仁、横尾武夫（大阪教育大学）

我々は、1995年に発見された超新星 SN1995D の測光観測を、大阪教育大学柏原キャンパスの 51cm 望遠鏡と窒素冷却 CCD を用いて行っている。今回、その時の膨大な観測アーカイブを利用して、超新星の母銀河である NGC2962 の表面測光を行った。本学天文台は、市街光の厳しく銀河の表面測光には不利な環境にある。我々は、クオリティの高い画像を選び、重ね合わせ（積算 70 00sec）を行い、母銀河の画像の S/N 比を大きくしている。また、その誤差についての見積もりを行った。結果として、NGC2962 の測光学的諸パラメータを得ると共に、形態学的には、Inner Ring と Outer Ring の構造を抽出することができた。

また、先の超新星の観測から、最大光度と減光率の相関より絶対等級を求め、その距離を 28Mpc と推定している（K.Sadakane et al.,1996）。今回の研究では、系外銀河の距離指標として銀河の Inner Ring の実直径を用いる方法（R.Buta,1990）と、Tully-Fisher relation を用いて距離を推定する方法を適用し、それぞれから得られた距離の結果について比較検討を行った。